

コラム①：さとうきびの夏植の植付時におけるメイチュウ類の防除対策

県内全域のさとうきびほ場において、メイチュウ類による被害がみられます。生育初期の被害軽減のため、植付時における粒剤施用と植付後の除草剤等による防除対策を徹底しましょう。

1 メイチュウ類の被害

- a メイチュウ類はイネヨトウ(図1)とカンシャシクイハマキ(図2)が主な種である。
- b どちらも芯枯れを引き起こす(図3)。
ほ場での芯枯れ被害のパターンは異なり、イネヨトウは被害が集中し坪枯れ(図4)がおこるが、カンシャシクイハマキは、ほ場内で芯枯れが散見される。
- c 幼虫はよく似ているが、頭部色や体色、動き方等で判別できる(表1)。



図1 イネヨトウ



図2 カンシャシクイハマキ



図3 芯枯れを起こしたさとうきび

表1 イネヨトウとカンシャシクイハマキの幼虫の違い

	イネヨトウ	カンシャシクイハマキ
体長	～35mm	～20mm
頭部色	黒褐色	茶褐色
体色	白～紫	白～黄色
動きの特徴	動きが鈍く、 後退できない	動きが機敏で、 後退できる



図4 ほ場内の坪枯れの様子

2 防除対策上注意すべき事項

- (1) 植付時
 - a 全茎苗は剥葉し、メイチュウ類の被害芽子のある苗は使用しない。
 - b ほ場内外のイネ科雑草は本種の発生源となるため、除去する。
 - c 植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し、植溝施用する(図5)。
- (2) 生育初期
 - a 周辺ほ場における本種の発生有無を確認する。
 - b 芯枯れが発生した場合は、葉鞘に薬剤が入るよう意識し薬剤散布を行う。
 - c 培土時には土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
 - d 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。



図5 粒剤は散布後、土壌混和する